RIPPLE SAILING CLUB
NO.153

月刊1996.02.15

RIPPLE

（発行）
リプル・セイリングクラブ
〒238-03
神奈川県横須賀市長井2-11-1
TEL 0468-57-1711

海の仲間をもう一人。

今年のボートショーも無事終了しましたが、皆さんは会場には足を運ばれたのでしょうか。
私は今だ松葉杖の為、今年の様子は分からなかったのですが、バブル期の２００数十社から比べマリンレジャー関係の会社は９５社と、なんと６割減と成ってしまいました。
これがわが国のマリンレジャーの真の数字なのかも知れません。まして、セイリングボート人口は測り知れない数字が出て来るのでしょう。
ま一普通のスポーツから比べると、高価というイメージが有り、また面倒くさそうで、テニス、スキー、スノボー等のように今日お店に行って明日からプレイ出来るようなものでは決して有りません。
他のスポーツのようにヨットは投げたり、走ったり、打ったり、蹴ったりの様に単純ではなく、考えながらそして操作するという頭を使うスポーツなのです。そんなところがこのヨットというスポーツが取っ付きにくくしていて、新規参入者が少ないのでしょうか？。
どうが一般的にこのヨットと言うのは、人間古来から備わっている冒険心とか自立心などに大変良い影響を与えると言われています。
確かに水辺から艇を出し、まだ行った事のない海面に自分自信を持って行くと言うのは、考えてみれば凄いことだと思うし、一旦海面に出てしまったら沈もするし、その時に因って波とか風が自分の想像以上の自然条件にさらされるわけで、そんな時でも考えながら艇を操り、自分一人で帰って来なくては成らないわけです。
それも人工の力でなく、正に大自然の力のみで行わなくてはならないのです。
ですから、こんな素敵なスポーツをより多くの人に接して頂きたいと思い、我がリプルでは、今年から”ヤマハミニホッパーⅡ”を無料レンタル致します。
レンタル対象者としましては、自分の子供、奥方、彼女当りを考えています。
もちろん、ライフジャケット、ウエットスーツもレンタルします。尚ウエットスーツのサイズはS，Mのみです。
自分で艇を出し、レンタル対象者を同乗させるのも一つの楽しみ方ですが、今からは、ヨットを自分で教えて上げて一緒に海に出る。そして、このヨットの楽しみを分かち合ったらどうでしょうか。
どうしてもマス媒体で露出の多いスポーツばかりが人気が出てしまう昨今ですが、地球に優しく、費用も余り掛からないこのヨットを、身近な人から先ずは海に連れて来て教えてしまう、というのを今年は目標にしてみて下さい。
本格的なマリンシーズンの来る前に、先ずは帆走理論等の手ほどきをそろそろ始めていて下さい。

ちなみに当リプルの初心者対象のスクールはこんな感じです。
先ず座学から始め、ヨットの定義から入ります。
遊びに使用し疾走する船のことをヨットと言います。
ヨット→水密を保つ独立した部屋がある→クルーザーと呼ぶ。
クルーザー→主たる動力が機関→モータークルーザー
→主たる動力が風　→セイリングクルーザー
でもって、セイリングクルーザーでキャビンの無いものを、皆さんがやっているディンギーなのです。

揚力の説明

我々取り巻く地球上には大気の層があり、真空にした状態では水だったら約１０m、水銀だったら７８cmも押し上げてしまう大気が存在し、何かの拍子に気圧が薄くなったら、そこに大気が流れ込もうとします。

ベルヌイの定理

飛行機の羽の断面部分を説明し、流体を羽の前部に流すと、上部の方が気体が速く流れ気圧が薄くなり、下部から大気が押し付け、結果として飛行機は浮く。→水道の蛇口にスプーンを持っていって、如何に凄い力かを肌で感じてもらいます。

ヨットは揚力で進む

ヨットのエンジンとでも言えるセイルを使い、揚力を発生させ進む。
揚力の一番効率よく発生させるには、船の進む方向と風の吹いて来る方向の１／２の所が一番良くて、その位置にセットしないとストールあるいはシバーしていまい揚力が発生しない。この時、デッドゾーンとクローズホールドからデッドランニング迄の事を例の円形の図を書いて説明をします。同時にボートタック、スターボードタックもこの時に説明をします。また、横流れを防ぐセンターボードの役割の説明もします。

↓

ボートとスターボードの憶え方のアンチョコ。

そもそも大昔の船は右手で舵をとるためラダーが右にあり、岸壁に付ける際、舵が壊れないように必ず左側を岸壁に付けていたため、左側をボートと言い、反対に星の見える方をスターボードといい、船の進行方向に対して、どちらの方向から風が吹いて来るかによって呼び名が変わる。この時に、衝突しそうな２隻のヨットを書いて航路優先権を説明。
同一タックの上艇、下艇も説明。

方向転換

ここまでで、ヨットは何とか走るところまで来ましたが、目的地まではどうやって行くのかを説明。（タック、ジャイブ）
進む方向に岬などの障害物を記入し、障害物の向こうに目的地を作り、さーどうやって行きますかと言う問題で考えてもらいます。この時にデッドゾーンを再確認します。

ロープワーク

帆走理論はこの位にして、ヨットを組み立てる際に必要なロープワークのボーラインノットとエイトノットを知ってもらいます。さらにクラブヒッチ、クリート結びも付け加えます。

ヨットの組立

実際に砂浜にヨットを持って行き各部の名称と役割を説明しながら組み立てていきます。

陸上シュミレーション

風軸に対してバウを左右に振り、身の移し方とシートとエクステンションの交換の仕方を憶えてもらいます。

海上練習

アビームによる直線練習とタックによる方向転換（８の字）→クロズホールドとタック→リーチングによるジャイブ→沈起こし→浜に戻り出艇と着艇の練習。（ＯＦＦ，ＯＮの時）→ＯＮの時ビーチブレイクする沖までバウロープを持って行き、進みたい方向に艇を向け素早く乗り込み①センターボード、②揚力を発生（シートの引き込み）、③ラダーのダウンの練習。

後片付けと反省

潮出し、セイルのしまい方、シートのコイルの仕方等。

一応ここまでやると次回からは一人で出来るように成るはずです。教えるのは大変かも知れませんが、どうか皆さんの今までの経験を活かし、一人でも多くの人にヨットを理解してもらって下さい。
当リプルとしても時間が取れるようでしたら、座学はもちろんそれから先も応援させて頂きます。

RIPPLE号の３月度のレクチャー予定は、ダウンウインドに付いてです。イメージトレーニングしたい人はノース社と舵社のビデオがあります。